

データ算定ソフト提供

IBC サーチャージ普及貢献

【佐々木健】運送事業者向けコンピュータソフトの開発販売のIBC(篠原寛社長、宇都宮市)は今月から、ユーザーを対象に「燃料サーチャージシステム」の無償提供を行っている。

同システムは月ごとの荷主別燃料上昇分を算定し、請求書などに記入するもので、同社では単なるソフト提供だけでなく、交渉段階までのコンサルティングを手掛けていく方針。システムは同社の主力パッケージソフトである「トラッキー21」に付加される。

「トラッキー21」は受注・配車から得意先の売り上げ、備車先の支払い、車両や乗務員の勤怠、経費や給与管理までが一括で総合管理が可能なシステム。①運賃決定当初の軽油価格②直近燃料価格

③車種別の平均燃費④当該月の走行距離から上昇分を算出し、請求書に記載。さらに導入交渉に当たっては各社の企業努力による経費削減分から割引率を算定し、これを請求に反映させ、最終額を決定できる。

篠原社長は「運送事業者は荷主との運賃交渉が不得手。新システムにより、基本データの算出だけでなく、交渉の過程もコンサルティングし、燃料サーチャージ制を普及させ、業界改善に貢献したい」と話している。